

解禁時間

9月21日(水) 午前0時

2022年9月16日

報道関係者各位

慶應義塾

第27回慶應医学賞受賞者決定

慶應義塾は、1996年から医学・生命科学の領域において顕著かつ創造的な業績を挙げ、今後さらなる世界的な活躍が期待される研究者を顕彰してきました。過去には、本賞受賞者からノーベル賞受賞者を8名輩出しており、国内の大学において他に類を見ない顕彰制度です。27回目を迎えた本年の慶應医学賞受賞者は、国立国際医療研究センター研究所 国際ウイルス感染症研究センター長の河岡義裕博士と、米国ペンシルバニア大学医学部教授の Carl H. June 博士の2名に決定いたしました。

1. 第27回慶應医学賞受賞者

河岡 義裕 (かわおか よしひろ) 博士

国立国際医療研究センター研究所
国際ウイルス感染症研究センター長
東京大学医科学研究所 特任教授

◆授賞研究テーマ

「パンデミック感染症の制圧を目指したウイルス病原性の解明」



Carl H. June (カール・ジューン) 博士

Richard W. Vague Professor in Immunotherapy
Director, Center for Cellular Immunotherapies
Director, Parker Institute for Cancer Immunotherapy
University of Pennsylvania Perelman School of Medicine

◆授賞研究テーマ

「新しい免疫治療戦略としてのCAR-T細胞療法の開発」



2. 授賞式および受賞記念講演会について

授賞式ならびに受賞記念講演会を以下の通り開催いたします。イベント欄への掲載ならびにご取材いただけますようお願い申し上げます。

日時：2022年11月28日(月) 14時～17時30分

会場：慶應義塾大学信濃町キャンパス北里講堂（北里記念医学図書館2階）
（東京都新宿区信濃町35番地）

交通：JR総武線・信濃町駅下車徒歩2分、都営大江戸線・国立競技場駅下車徒歩5分

参加登録：感染症対策のため、現地での参加は招待者に限らせていただきます。オンライン同時配信をいたしますので、一般・研究者・学生の方は、事前登録の上ウェビナーよりご参加ください。

使用言語：英語＜同時通訳有＞

詳細は、決定次第「慶應医学賞」ウェブサイトに掲載いたします。

<https://www.ms-fund.keio.ac.jp/prize/>





第27回慶應医学賞受賞者の紹介

河岡 義裕 (かわおか よしひろ) 博士

国立国際医療研究センター研究所 国際ウイルス感染症研究センター長
東京大学医科学研究所 特任教授
1955年11月14日生まれ (66歳)

1. 授賞研究テーマ 「パンデミック感染症の制圧を目指したウイルス病原性の解明」

河岡義裕博士はインフルエンザウイルスを人工合成する画期的な技術を、世界で初めて開発しました。インフルエンザウイルスを自由自在に作製することによって、その感染、増殖、高病原性獲得機構、さらには薬剤耐性獲得機構について分子細胞レベルで明らかにすることに成功しました。特に、同ウイルスのゲノム変異がもたらす宿主受容体との親和性変化が、ヒトへの感染性や高病原性を高めることを実験的に示しました。また、スペイン風邪を起こしたインフルエンザウイルスが、サイトカインストーム(炎症物質の暴走による過剰な免疫反応)を誘導することで宿主を死に至らしめることを示し、「ウイルス感染とサイトカインストーム」をはっきり関連づけました。そして、ウイルスの人工合成とその弱毒化によって、新型インフルエンザウイルスに対する新しいワクチンの開発にも貢献されています。さらに最近では、新型コロナウイルス(SARS-CoV2)に対しても、同様の実験手法を用いることによって、さまざまなバリエーション(変種)の病原性と薬剤への反応性の評価、感染モデル動物の開発など、パンデミック制圧に向けて幅広く貢献されました。

2. 略歴

学歴

1978 北海道大学獣医学部卒業 獣医師免許取得
1980 同大学院修士課程修了
1983 獣医学博士(北海道大学)取得

職歴

1980-1983 鳥取大学 農学部獣医微生物学講座助手
1983-1996 Postdoctoral Fellow, St. Jude Children's Research Hospital, Tennessee, USA
1996-1997 Member, St. Jude Children's Research Hospital, Tennessee, USA (教授研究員)
1997- Professor, School of Veterinary Medicine, University of Wisconsin-Madison, Wisconsin, USA
1999-2000 東京大学医科学研究所 細菌感染研究部教授
2000-2005 東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ウイルス感染分野教授
2005-2021 東京大学医科学研究所 感染症国際研究センター長
2021- 東京大学医科学研究所 ウイルス感染部門 特任教授
2021- 国立国際医療研究センター研究所 国際ウイルス感染症研究センター長

主な受賞歴

2006 ロベルトコッホ賞
2011 紫綬褒章
2013 米国科学アカデミー外国人会員
2015 国連教育科学文化機関(ユネスコ) カルロス・フィンレイ賞
2016 日本学士院賞

3. 受賞者からのコメント

錚々たる先生方が受賞されてきた慶應医学賞の榮譽にあずかり、身に余る光栄に存じます。評価していただいた研究成果は、研究室の現在、そしてこれまでのメンバーならびに共同研究者の努力と、研究費をサポートしてくださった研究助成機関ならびにその職員の方々、大学の事務方、また研究者仲間など、多くの方々の多大なる支援のお陰です。心から御礼を申し上げます。新型コロナウイルスによる未曾有の世界的困難に直面していますが、感染症の脅威は今後も増えることはあっても減ることはありません。感染症の克服に向けて、今後も精進し、努力していきたいと思っております。

Carl H. June (カール・ジューン) 博士

Richard W. Vague Professor in Immunotherapy

Director, Center for Cellular Immunotherapies

Director, Parker Institute for Cancer Immunotherapy

University of Pennsylvania Perelman School of Medicine

1953年7月13日生まれ (69歳)

1. 授賞研究テーマ 「新しい免疫治療戦略としての CAR-T 細胞療法の開発」

Carl June 博士は、CAR-T 細胞療法の臨床応用を実現し、がん、感染症などに対する新しい免疫療法の領域を開拓しました。CAR-T 細胞療法は、キメラ抗原受容体 (chimeric antigen receptor: CAR) を産生するように遺伝子操作された T 細胞を用いた治療法です。June 博士は、T 細胞増殖における共刺激分子 CD28 の役割を解明し、キメラ抗原受容体に共刺激分子を組み合わせて発現させることにより、CAR-T 細胞療法を抗原特異的に強力な細胞傷害活性を発揮する実用レベルの治療法に進化させました。そして、CAR-T 細胞療法は、従前の治療に反応しない難治性急性白血病に対して画期的な治療効果を示し、世界の多くの国で承認を受け、実臨床の中で定着しています。さらに、CAR-T 細胞療法は、さまざまな分子を標的とすることにより、種々の病型の悪性リンパ腫、固形癌、さらには HIV 等の感染症に対する治療法として進化し続けています。CAR-T 細胞療法の臨床開発を通して、今後さらに発展する新しい治療戦略の基盤を構築した Carl June 博士の功績は、慶應医学賞にふさわしいと考えられます。

2. 略歴

学歴

1975 B.S.(Biology) United States Naval Academy, Annapolis, Maryland, USA

1979 M.D.(Medicine) Baylor College of Medicine, Houston, Texas

1985 Postdoctoral Fellow (Oncology/Immunology) Fred Hutchinson Cancer Research Center, Washington

職歴

1978-1979 Research Fellow, World Health Organization Immunology Research and Training Center, Geneva, Switzerland

1979-1980 Internship: Basic Medicine, National Naval Medical Center, Bethesda, Maryland, USA

1980-1982 Teaching Fellow, Department of Medicine, Uniformed Services, University of the Health Sciences, Bethesda, Maryland

1980-1982 Residency: Internal Medicine, National Naval Medical Center, Bethesda, Maryland

1982-1983 Instructor, Department of Medicine, Uniformed Services University

1982-1983 Chief Resident: Internal Medicine, National Naval Medical Center, Bethesda, Maryland

1983-1985 Fellow in Oncology, University of Washington and Fred Hutchinson Cancer Research Center, Seattle, Washington

1986-1990 Assistant Professor, Department of Medicine, Uniformed Services

1990-1995 Associate Professor, Department of Medicine, Uniformed Services

1995-1999 Professor, Department of Medicine, Uniformed Services University of the Health Sciences

1999-2001 Professor of Molecular and Cellular Engineering, University of Pennsylvania School of Medicine

2001-present Professor of Pathology and Laboratory Medicine, University of Pennsylvania School of Medicine

2004-present Professor of Medicine, University of Pennsylvania School of Medicine

2015-present Director, Center for Cellular Immunotherapies at the University of Pennsylvania

2016-present Director, Parker Institute for Cancer Immunotherapy at the University of Pennsylvania

主な受賞歴

2015 Paul Ehrlich and Ludwig Darmstaedter Prize (shared with J. Allison),

2016 Novartis Prize in Immunology (shared with Z. Eshhar and S. Rosenberg),

2017 Karnofsky Prize from the American Society of Clinical Oncology

2020 Lorraine Cross Sanford Health Award

2021 Dan David Prize from Tel Aviv University

3. 受賞者からのコメント

がん治療法であるキメラ抗原受容体 T 細胞 (CAR-T) 開発の功績が認められ、この度慶應医学賞を授賞いただけること、大変光栄に存じます。ペンシルバニア大学の私の研究チームを代表して御礼申し上げます。この技術が、がん以外の慢性感染症、臓器移植、自己免疫疾患の治療においても応用され、患者を救うために、世界規模で臨床試験が進んでいることを大変喜ばしく思います。



慶應医学賞について

1. 慶應義塾医学振興基金設置の経緯

1994年秋に本学医学部の卒業生である坂口光洋（さかぐち みつなだ）氏（1940年卒業）から「義塾における医学研究の奨励と創造的発展に貢献するとともに、世界の医学の進歩に寄与する」ことを念願して浄財 50 億円が寄付されました。これを受けて慶應義塾は、『慶應義塾医学振興基金』を設置し、1995年4月1日より活動を開始いたしました。さらに1999年7月には20億円の追加寄付を得て、総額70億円をもとに慶應医学賞の授与、医学国際交流事業、医学研究奨励事業、医学研究助成事業、坂口光洋記念講座という基金事業を行っています。

2. 慶應医学賞の目的

世界の医学・生命科学の領域において医学を中心とした諸科学の発展に寄与する顕著、かつ創造的な研究業績をあげた研究者を顕彰することにより、世界の医学・生命科学の発展に寄与し、ひいては人類の幸福に貢献することを目指します。

3. 審査・選考および概要

世界各国の著名な研究者および研究機関から推薦された候補者の中から、数次にわたる厳正な審査を経て、最終審査委員会で学内外13名の審査委員が受賞者を決定しています。受賞者には、賞状とメダルおよび賞金1,000万円が贈呈されます。

第27回慶應医学賞審査委員：

- 塩見 春彦（委員長・慶應義塾大学医学部 分子生物学 教授）
- 天谷 雅行（慶應義塾 常任理事、慶應義塾大学医学部 皮膚科学 教授）
- 有田 誠（慶應義塾大学薬学部 代謝生理化学 教授）
- 久保田 義顕（慶應義塾大学医学部 解剖学 教授）
- 中原 仁（慶應義塾大学医学部 内科学（神経） 教授）
- 本田 賢也（慶應義塾大学医学部 微生物学・免疫学 教授）
- 審良 静男（大阪大学 WPI 免疫学フロンティア研究センター 特任教授）
- 清水 孝雄（公益財団法人微生物化学研究会 常務理事、微生物化学研究所 所長、国立研究開発法人国立国際医療研究センター プロジェクト長）
- 高橋 淑子（京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻 教授）
- 田中 啓二（公益財団法人東京都医学総合研究所 理事長）
- 永井 良三（自治医科大学 学長）
- 野田 哲生（公益財団法人がん研究会 代表理事・常務理事、がん研究所 所長）
- 柳沢 正史（筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構（WPI-IIIIS） 機構長・教授）

4. 主な歴代受賞者（敬称略）

- 第1回（1996年）Stanley B. Prusiner（1997年ノーベル生理学・医学賞受賞）
プリオンの発見とプリオン病の解明
- 第4回（1999年）Elizabeth Helen Blackburn（2009年ノーベル生理学・医学賞受賞）
テロメアとテロメラーゼ
- 第7回（2002年）Barry J. Marshall（2005年ノーベル生理学・医学賞受賞）
ピロリ菌に対する診断、治療法を確立
- 第9回（2004年）Roger Y. Tsien（2008年ノーベル化学賞受賞）
生きた細胞内のシグナル伝達の可視化と計測技術の開発
- 第11回（2006年）Thomas A. Steitz（2009年ノーベル化学賞受賞）
リボソームの構造解明及びそれに基づく次世代抗菌薬の開発
- 第15回（2010年）Jules A. Hoffmann（2011年ノーベル生理学・医学賞受賞）
昆虫における自然免疫システムと Toll 受容体の発見

第20回（2015年）大隅 良典（2016年ノーベル生理学・医学賞受賞）
オートファジーの分子機構の解明
第21回（2016年）本庶 佑（2018年ノーベル生理学・医学賞受賞）
PD-1分子の同定とPD-1阻害がん免疫療法原理の確立

以上

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、科学記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、各社科学部等に送信しております。

<本発表資料に関するお問い合わせ先>

慶應義塾医学振興基金事務室（山本、笹川）

TEL: 03-5363-3609 FAX: 03-5363-3215

E-mail : k-msf@adst.keio.ac.jp

<https://www.ms-fund.keio.ac.jp/>

<発信元>

慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課（山崎、飯塚、奈良）

TEL: 03-5363-3611 FAX: 03-5363-3612

E-mail : med-koho@adst.keio.ac.jp

<https://www.med.keio.ac.jp/>